2019年12月1日
No.93

イルカ通信

隔月1回発行
バックナンバーは無料で
ダウンロードできます
（下記参照）

ハンドウイルカとマダライルカはどこで見られる？

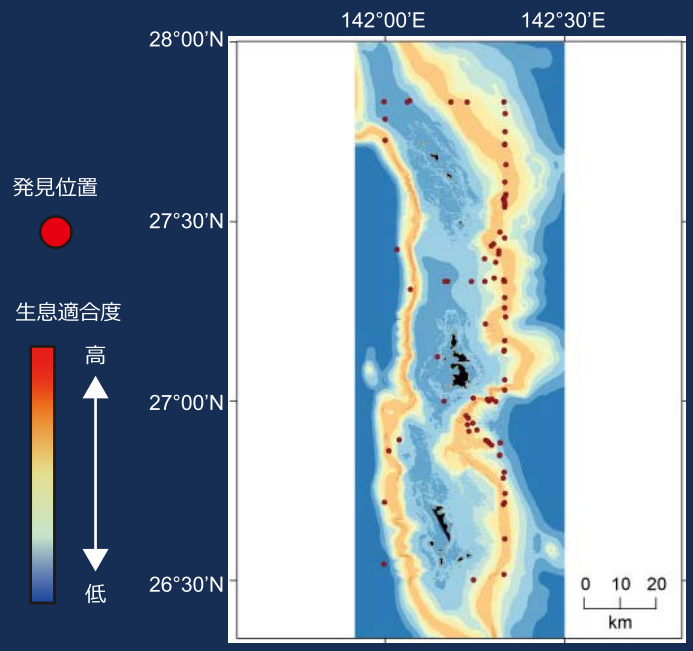
小笠原群島（聟島、父島、母島列島）の沿岸域でよく見かけるイルカは、ミナミハンドウイルカとハシナガイルカの2種類です。けれども、ちょっと沖合域へと足を伸ばせば、ハンドウイルカやマダライルカといった別の種類のイルカを見かけるようになります。今回は、そんな沖合域で見られるイルカに関するお話です。

ＯＷＡでは、東京都小笠原水産センターと共同で、毎月、小笠原群島周辺の鯨類目視調査を実施しています。その結果から、ハンドウイルカとマダライルカは、小笠原群島の沖合域に通年生息していることがわかっています（イルカ通信No.78参照）。では、広い沖合域の中でも、いったいどのあたりでよく見られているのでしょうか？

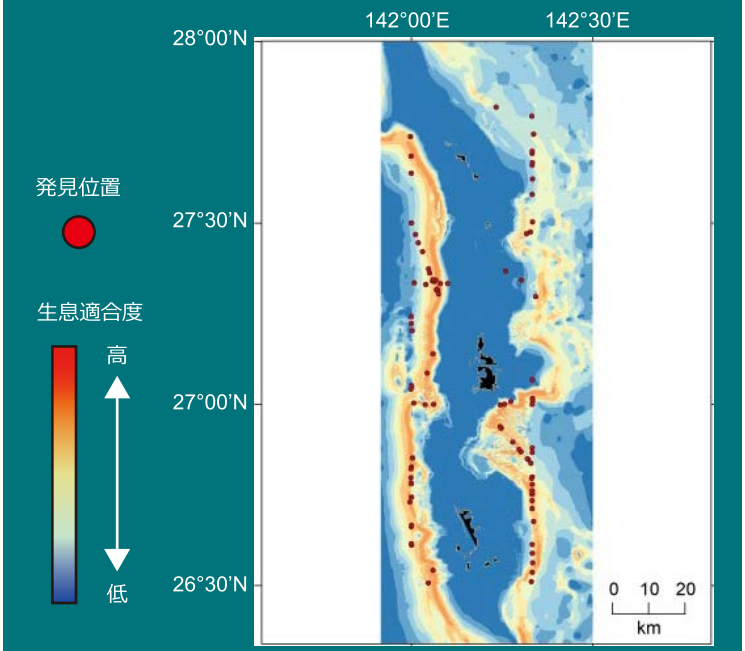
水産センター所属の調査指導船「興洋」での調査で記録したこれまでの2種類の発見位置と、その地点の水深・海底傾斜角の情報から、それぞれの種が生息するのに適した環境の場所を予測してみました（図）。その結果、ハンドウイルカの方がマダライルカよりも水深が浅く、傾斜の緩やかな海域で見られる確率が高いことが示唆されました。といっても、両種が生息するのに適した環境は重なるところも多く、調査でも、互いの群れが混ざり合って発見されることがあります。そのうえで、ハンドウイルカの方がより浅い場所を利用している、という解釈になります。

こうした分布の違いが生じる理由としては、餌生物をめぐる競争を避けるためや、それぞれが好む水温が違うため、といったことが考えられます。今後は、彼らがどういった餌を食べているのかを調べる必要がありますし、海底地形だけではなく、1年を通した水温の変化によって分布場所が変わるのかどうかも調べていきたいと思います。

ハンドウイルカ
Tursiops truncatus
体長：1.9~3.8m
体重：90~650kg
世界中の温帯から熱帯にかけて生息



マダライルカ
Stenella attenuata
体長：1.6~2.6m
体重：120kg
世界中の亜熱帯から熱帯を中心に生息



一般社団法人　小笠原ホエールウォッチング協会　URL　http://www.owa1989.com/
〒100-2101　東京都小笠原村父島字東町　TEL　04998-2-3215　e-mail　info@owa1989.com

イルカ通信はOWAのホームページ（http://www.owa1989.com/owa/dolphin）からダウンロードできます（無料）